

学校経営にいかす！

保存版

管理職が語る 教育の情報化のコツ



① ICT機器の常設



② ICT活用校内研修の実施



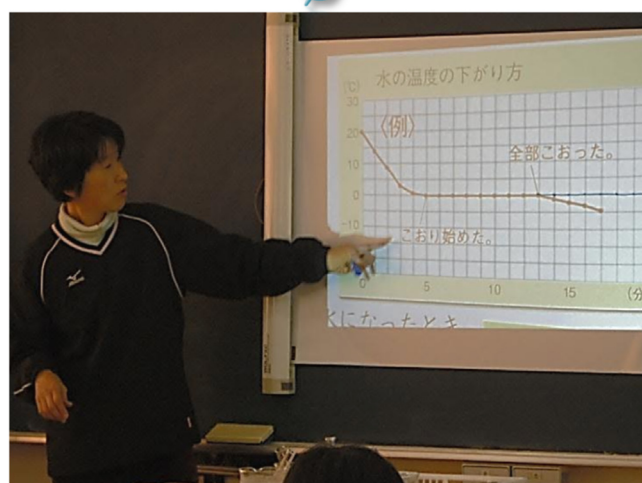
③ 校務支援システムの導入

教育の情報化を推進している
県内3名の校長先生方に
推進のコツを伺いました。



ICT機器の常設で、 全教員が一斉指導を充実させる

和気町立日笠小学校長 水嶋 美知江



実物投影機を 全普通教室に常設する

全ての先生方にとって簡単に扱えるICT機器が**実物投影機**です。本校では、実物投影機を**全普通教室に常設**しているので、先生方はスイッチを入れるだけで、教科書、ノートや自分の手元を大きく映して指導することが可能です。

毎日、大きく映して指導する

先生方は、毎日、実物投影機を使って指導しています。以前と比べて、**授業の流れは全く変わらない**ところも、いいですね。**児童の発表の場面**でもよく使っているようです。



説明や指示を行き届かせる

全ての先生方が大きく映しながら、丁寧に指導するので、児童に**学習内容の説明や活動の指示が確実に行き届きます**。この毎日の丁寧な指導の積み重ねが、学力向上につながるのだと思っています。

Point

1. 普通教室に実物投影機を常設する
2. 全教員が日常的に実物投影機を活用する
3. 説明や指示を確実に伝え、一斉指導を充実させる

● 水嶋校長先生が語る「教育の情報化」のコツ



Question 1

ICT機器が常設される以前の状況を教えてください。

Answer

一斉指導の充実が課題でした。

本校は1学級5～10人の学校です。授業では、机間指導の場面等で、個々の児童に行き届いた指導ができます。その反面、一斉指導の場面で、指導を行き届かせるということが、徹底できていなかったように思います。

Question 2

実物投影機が常設されて、授業の様子は変わりましたか？

Answer

毎日活用し、一斉指導が充実してきました。

先生方は、毎時間、使っていますよ。スイッチを入れるだけで大きく、きれいに映るのですからね。教科書を大きく映して指導したり、低学年では、先生が手元を映して演示したりしている場面をよく見かけますよ。先生の伝えたい学習内容の説明や指示が、確実に行き届くので、一斉指導が充実してきたなと感じています。



Question 3

校長先生がいつも心がけていることは何ですか？

Answer

毎日の授業での「徹底と改善」です。

本校の合い言葉は「徹底と改善」です。学習の基本は「まずは、きちんと聞かせて、取り組ませて、そして、考えさせること」だと私は考えています。ICT活用は、その有効な手段ですね。校長の私にできることは、児童の学力向上のために、教育委員会と連携して、教室環境の整備を行い、先生方の指導を最大限に支援していくことだと思っています。

Question 4

今後、取り組んでいきたいことを教えてください。

Answer

日々の一斉指導を更に充実させたいと考えています。

日々の授業で「徹底と改善」を心がけた成果が児童の姿に現れてきました。今後も一斉指導を充実させ、まずは基礎・基本の習得から徹底していきたいと考えています。そのためにも、先生方にフラッシュ型教材を紹介して学校全体で取り組んでいきたいと考えています。



【和気町立日笠小学校】



<http://hikasa-es.wake.schoolweb.jp/>

【解説】

和気町では、全教員が毎日活用できるようにICT機器を小学校の全普通教室に常設しています。日笠小学校では、「日々の学習指導を充実させる」という水嶋校長先生の学校経営方針にICT活用が位置付き、着実に成果をあげています。また、長期ビジョンを基に、水嶋校長先生自らが教育の情報化に関する情報を収集したり、校内に広めたりしている点も見習いたいことです。（指導主事 片山 淳一）

ICT活用の校内研修の実施で、 全教員の指導力向上につなげる

総社市立総社西小学校長 井上 克彦



実物投影機の操作を体験する

ICT活用の校内研修では、まず、実物投影機の操作を実際に体験します。簡単に、教材や手元を大きく映すことができるので、全ての先生方が、授業で活用できるという手応えをつかむことができます。操作する際のちょっとした工夫も共有することができます。

分かりやすい教え方を協議し、 模擬授業形式で発表しあう

児童のつまずきやすい場面を取り上げ、どう大きく映し、どう発話すれば、分かりやすく指導できるかを話し合い、その結果を模擬授業形式で発表し合います。



短時間で、繰り返し実施する

校内研究の柱の一つにICT活用を位置付け、分かりやすい教え方について、全教員で協議します。研修を短時間で、繰り返し行うことが有効ですね。

Point

1. 全教員で実物投影機の操作を体験する
2. 分かりやすい教え方を協議し、発表し合う
3. 研修を短時間で、繰り返し実施する

● 井上校長先生が語る「教育の情報化」のコツ



Question 1

ICT活用の研修を実施する前の様子を教えてください。

Answer

先生によって、授業でのICT活用の頻度に差がありました。

本校では、教育委員会の協力を得て、実物投影機とプロジェクタ、マグネットスクリーンを全普通教室に常設していました。しかし、若手の先生方に比べて、ベテランの先生方はあまり使わない傾向がありました。実物投影機活用の効果は分かっているながらも、使い始めるきっかけがなかったのだと思います。

Question 2

どのようなICT活用の校内研修を実施したのですか？

Answer

日常の授業に結び付く内容を、繰り返し実施しました。

まずは、実物投影機の操作を体験しました。操作方法は簡単なので、ベテランの先生方も確実に習得できていたようです。その後の研修では、教材をホワイトボードに大きく映して水性ペンで書き込んだり、付箋紙で隠したりして、どう映せば効果的なのか、どう発話すれば児童のつまずきを減らすことができるのかを協議し、発表し合いました。この研修を短時間で、繰り返し実施して、指導力を向上させるようにしました。



Question 3

ICT活用の校内研修での先生方の様子を教えてください。

Answer

日常の授業に即した指導技術を学ぶきっかけになりました。

ICT活用の校内研修を通して、若手の先生方が、ベテランの先生方の指導技術を学んでいました。例えば「私なら、もっと、簡単な内容から発問するけどなあ」や「そこは、説明しなければ、子どもは分からないよ」とか、授業に即した具体的な指導技術を教わっていました。若手の先生方は「明日、試してみよう」と笑顔で言っていたのが印象的でしたね。

Question 4

今後、取り組んでいきたいことを教えてください。

Answer

分かりやすい教え方を協議する研修を継続していきたいです。

指導者用デジタル教科書の導入を進めています。実物投影機活用の校内研修と同じように、先生方の指導力向上のために、操作の研修ではなく、分かりやすい教え方を協議する研修を繰り返し実施して、子どもたちの学力向上につなげていきたいと考えています。



【総社市立総社西小学校】



<http://www.nishi-es.soja.ed.jp/>

【解説】

総社西小学校では、実物投影機を常設したことをきっかけに、操作研修だけではなく、分かりやすい教え方を協議する研修を繰り返し実施しています。「ICTは道具で、教員の指導力向上こそが学力向上につながる」という井上校長先生の方針が校内研修の進め方に具現化されています。貴校でも、教員の指導力向上のためのICT活用の校内研修を実施してはいかがでしょうか。
(指導主事 片山 淳一)

校務支援システムの導入で、 学校経営を安定的なものにする

笠岡市立中央小学校長 藤井 厚男



校務支援システムで きめ細やかな指導を行う

本校では、教育委員会の協力を得て、校務支援システムを導入し、児童の出欠席情報、成績情報、日々の様子などを一元管理しています。蓄積した情報は、全教員で共有・把握でき、個々の児童へ、きめ細やかな指導を行うことが可能です。

全教員の負担感を軽減する

日々、蓄積された情報を基に、通知表等を、短時間で、ミスなく作成できます。学級担任の先生方の負担感も軽減でき、児童と向き合う時間も確保できました。また、エビデンスに基づいた信頼性の高い通知表を保護者に渡すことにより、更に学校への信頼感も増したように思います。



学年	月	日	氏名	性別	年齢	学年	月	日	氏名	性別	年齢	学年	月	日	氏名	性別	年齢
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31

正確で迅速な学校経営判断を行う

管理職の私も、個々の児童の情報だけでなく、学校全体の傾向まで、迅速に、正確に把握できるようになりました。それらの情報に基づき、学校経営判断も下せます。つまり、校務支援システムは、学校経営を安定的なものにするシステムなのです。

Point

1. 情報を蓄積・共有し、きめ細やかな指導を行う
2. 全教員の負担感を軽減する
3. 正確で迅速な学校経営判断を行う

● 藤井校長先生が語る「教育の情報化」のコツ



Question 1

校務支援システムが導入される以前の様子を教えてください。

Answer

児童一人一人の情報を共有・把握することが困難でした。

本校は、学年3～4学級の学校です。以前から「全教員で全児童を指導しよう」という方針は設けていたのですが、管理職の私も含めて全教員が、全児童の情報を、的確に共有・把握しておくことは困難な状況でした。

Question 2

導入する際に、気を付けたことは何ですか？

Answer

試用期間を設定し、無理なく導入しました。

年度が変わった途端に、運用を開始するのではなく、導入後最初の1年間は試用期間にしました。その期間は、教頭先生が中心となり、操作研修を実施したり、全体の業務フローの見直しを行ったりしました。急激な変化は、先生方の負担感を増やしますからね。



Question 3

運用してみて、変化はありましたか？

Answer

先生方の負担感は軽減し、保護者の信頼感は増加しました。

校務支援システムの画面は、操作しやすいので、先生方はすぐに操作に慣れたようですよ。画面には児童の顔写真が表示されるのがいいですね。先生方の入力ミスが防げますし、私も児童の顔と名前を一致させて、児童の日々の様子を把握することができます。また、学期末には短時間で正確な成績一覧表や通知表が印刷できるので、先生方は驚きの声をあげていましたね。学校にとっても、先生方の負担感を軽減させ、児童と向き合う時間を確保できたことと同時に、エビデンスに基づいた信頼性の高い通知表を、保護者の方に渡すことができたことは、学校への信頼感を更に増すことにつながったように思います。

Question 4

今後、取り組んでいきたいことを教えてください。

Answer

校務支援システムを活用した学校経営を行っていくことです。

校務支援システムは、児童一人一人の情報を正確に共有・把握でき、よりの確で、迅速な学校経営判断を手助けしてくれる便利な道具です。今後、先生方や児童のために、この校務支援システムを学校経営に有効に活用していく方針を示し、具現化していくことが、管理職の私に求められていることだと感じています。



【笠岡市立中央小学校】



<http://tyuou-es.kasaoka-ed.jp/>

【解説】

中央小学校では、教育委員会と連携して校務支援システムを導入し、教育活動の質の改善と先生方の負担感の軽減を両立させています。徐々に導入・運用を進めた藤井校長先生のビジョンも素晴らしい点です。そして、校務支援システムの導入を契機に、業務フローも改善し、よりの確で迅速な学校経営判断を行うことで、学校経営を安定的なものにしようとしているところも見習いたい点です。
(指導主事 佐柳 勇)

管理職オススのICT



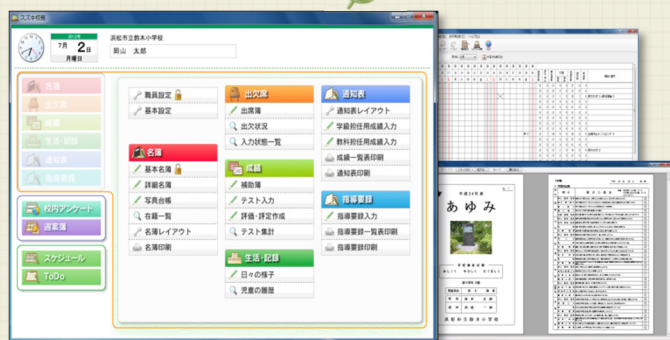
【実物投影機】教科書や資料、立体物をプロジェクタを介して、そのまま画像でスクリーンなどに映し出す機器。カメラ機能もある。デジタルテレビに直接接続して映し出すこともできる。

【参考】<http://www.elmo.co.jp/niko-niko45/>



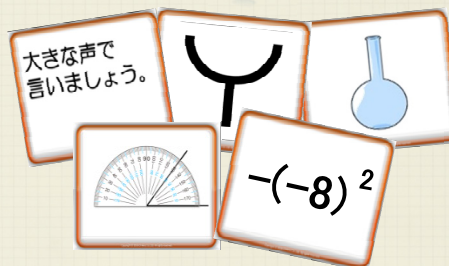
【研修パッケージ】研修カリキュラム、研修の進行台本、研修のスライドデータ、ワークシートや教材等が用意されている。それらを用いれば、研修担当者は最小限の準備で研修の設計・進行が可能である。

【参考】<http://www.classroom-solution.jp/result.html>



【校務支援システム】校務用コンピュータを活用して、児童生徒の成績や生活指導、出欠席記録、健康情報などを一元的に管理するシステム。蓄積した情報を基に、通知表、指導要録などを印刷することが可能である。

【参考】<http://www.suzukisoft.co.jp/>



【フラッシュ型教材】フラッシュカードのように、課題を瞬時に、次々と提示するデジタル教材のこと。ゲーム感覚で楽しく、集中して反復学習することができる。基礎学力の定着に効果的であり、注目されている。

【参考】<http://eteachers.jp/>

まとめ

教育の情報化を推進するに当たり、管理職自らが教育の情報化の意義を正しく理解し、校内の教職員に正しく伝えたり、校内の雰囲気づくりを行ったりすること、また、ICT機器の整備やICT活用に向けた運営方針を示すことなどが、『教育の情報化に関する手引』（2010，文部科学省）には示されています。このパンフレットで紹介した3人の校長先生のお話を参考に、是非、貴校の先生方や児童生徒のためにも、学校経営方針に教育の情報化を位置付け，実践されてはいかがでしょうか。

平成24年度岡山県総合教育センター所員研究（共同研究：教育の情報化）
「管理職向け教育の情報化推進パンフレットの開発と評価」

- 指導助言者 堀田 龍也 玉川大学教職大学院教授
- 協力委員 水嶋美知江 和気町立日笠小学校長
- 藤井 厚男 笠岡市立中央小学校長
- 井上 克彦 総社市立総社西小学校長
- 研究委員 小林 朝雄 岡山県総合教育センター情報教育部長
- 片山 淳一 岡山県総合教育センター情報教育部指導主事
- 佐柳 勇 岡山県総合教育センター情報教育部指導主事

平成25年2月発行 管理職が語る教育の情報化のコツ
【編集兼発行所】岡山県総合教育センター
〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL：(0866) 56-9101 FAX：(0866) 56-9121
URL：http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/
E-mail：kyoikuse@pref.okayama.lg.jp